

ART OSAKA 2017

2017. 7. 8 [sat] - 7. 9 [sun] HOTEL GRANVIA OSAKA 26th Floor

ART OSAKA 2017 多くの来場者で賑わい閉幕

入場者数 2950名

売上総額 4250 万円（昨年比 4200 万円）



今年で 15 回目を迎える『ART OSAKA 2017』が 7 月 7 日(金)プレビュー、8 日(土)、9 日(日)が一般公開の計 3 日間、ホテルグランヴィア大阪 26 階にて開催されました。

来場者数は2950名と若干下回ったものの、出展ギャラリーからは「商談するにはちょうどよい」「混雑しすぎなくてよかった」などのという声も多くいただきました。セールスは4250万円と年々少しずつ増加傾向にあります。

今年のラインナップはマカオ、台湾、韓国から6軒の海外ギャラリー、国内からは大阪をはじめ、京都、奈良、兵庫、愛知、東京より48軒、総勢54軒(初出展9軒)の現代美術ギャラリーによる展示が、ホテルの 26 階フロアを満たしました。具体的な構成としては、ギャラリーによる展示が、通常の展示室 54 室と Exhibition Plus(個展形式、またはテーマに基づいた展示) 8 室、加えて 1 室の企画展で構成されました。また、会期中には同会場にて15回目を記念するトークイベント、「インテリア関係者のためのアートライフスタイリング1day研修」(主催:アートのある暮らし協会)も開催されました。

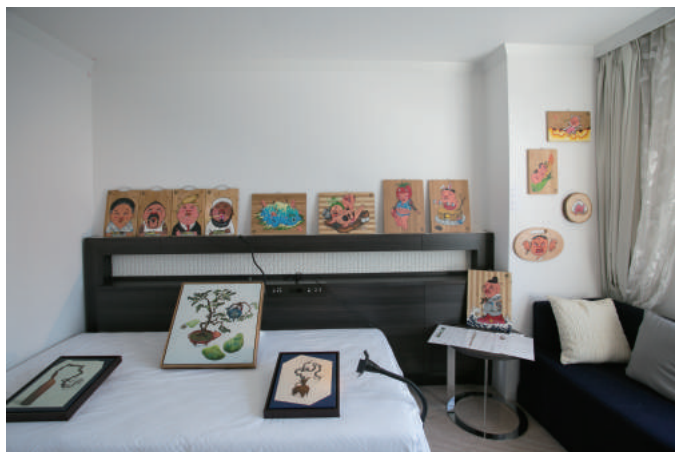
出展ギャラリーの中で注目を集めていたのは、即興で来場者の似顔絵を自身の後頭部に描き、紙を押し付け魚拓ならぬ「顔拓」で作品を作り出す若木くるみ(Finch Arts、京都)、右左に分割されたキャンバスの左側にコラージュ、右側にそのコラージュを反転・再現したペインティングが印象的な杉本克哉(hpgrp GALLERY、東京)。Mr.OGAY(Gallery Grand Siècle、台湾)のユーモアのあるストリートアートのような作品。力強くかつ柔らかなタッチの2面性を持った絵画を描く山本理恵子(MORI YU GALLERY、京都)などでした。



1. Finch Arts 若木くるみ作品
写真：待夜由衣子 (Yuiphotop)



2. hpgrp GALLERY 杉本克哉作品(壁面右)
写真：待夜由衣子 (Yuiphotop)



3. Galerie Grand Siècle Mr. OGAY作品 (壁面)
写真：待夜由衣子 (Yuiphotop)



4. MORI YU GALLERY 山本理恵子
写真：宇野真由子 (UNO photo works)

企画展では京都市立芸術大学とのコラボレーション企画「京芸 transmit program: ART OSAKA version」と題し、迎英里子による個展「アプローチ7」を開催しました。迎は現象自体が持っているイメージや意味合いを解体し、現象そのものの捉え方を見直す装置を作ります。展示室には装置とパフォーマンスの記録映像が展示され、会期中の7日(金)・9日(日)には迎によるパフォーマンスもおこなわれました。



5. 迎英里子個展「アプローチ7」展示風景
写真：待夜由衣子 (Yuiphotop)

また8日(土)には、ART OSAKA開催15回目を記念し、スペシャルトークイベントがおこなわれました。ART OSAKA実行委員である加藤義夫が司会を務め、第一部では菅谷富夫(大阪新美術館建設準備室 研究主幹)をゲストに迎え「大阪新美術館と大阪の文化のこれから」をテーマに、新しい美術館の可能性についてお話いただきました。第二部ではおかけんた(芸人 / アートプランナー)、山本豊津(東京画廊+BTAP 代表取締役社長)、森裕一(MORI YU GALLERY / ART OSAKA 次期実行委員長)をゲストに迎え「ギャラリーネットワークとアートフェアの未来形」をテーマに白熱した議論が交わされました。



6. スペシャルトークイベント第一部「大阪新美術館と大阪のこれから」会場様子
写真：待夜由衣子 (Yuiphotop)



7. 大阪新美術館の計画をわかりやすく説明する 菅谷富夫
写真：待夜由衣子 (Yuiphotop)



8. スペシャルトークイベント第二部「ギャラリーネットワークとアートフェアの未来形」
会場の様子
写真：待夜由衣子 (Yuiphoto)



9. 積極的に議論を交わす (右)森裕一/(中央)山本豊津/(左)おかけんた
写真：待夜由衣子 (Yuiphoto)

作品売上に関しては、今年の売上総額は約4250万円と昨年より50万円増となり、総売上台数は約860点に上りました。販売された作品の平均単価は約5万円(昨年約6万円)でした。また1ギャラリーあたりの作品売上は、16点で約78.6万円(昨年14点、約80.4万円)となりました。細かく分析すると、売上総額が100万円を超えたギャラリーは12軒(昨年9軒)と年々増加傾向にあり、来場者2950名に対して860点の作品が販売されたことを考慮すると、3.4人に1人が作品を購入していることになります。平均単価は若干下がったものの、より多くの方に作品をご購入いただいたという結果となりました。

今回の「ART OSAKA」では出展者からは、「購入意識を持った来場者が増えてきた」や「何度も足を運んでいるうちにアートが買えるものだという認識を持つようになったと話されている方がいた」という声もあり、15回と回を重ねてきたことで、夏の恒例アートイベントというイメージだけに留まらず、作品を購入できる場所という認識が着実に広がっていることを実感できるフェアになりました。

末筆になりますが、「ART OSAKA」が願っていることは、日常生活の中にアートコレクションが広がっていき、社会の中でもアートコレクションの重要性の認知が広がることです。大阪での現代美術やそのコレクションに対する意識を高め、「ART OSAKA」がギャラリーと新しいお客様、若いお客様との出会いの場と機能するように、日頃から一層の工夫をもって活動していきたいと思えます。

特別協力：ホテルグランヴィア大阪

協賛：アサヒビール(株)/(株)ライブアートブックス/(株)ダイム/ホルベイン(株)/イリカフェ社
プリムスフード(株)

後援：Young Art Taipei / ART KAOHSIUNG / アートのある暮らし協会 / ワンピース倶楽部 / パトロンプロジェクト
イベント協力：京都市立芸術大学

メディアパートナー：KANSAI ART BEAT / 株式会社 生活の友の社 / Art Facts. Net



DAIMU Co., Ltd.

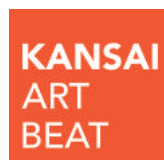


ホルベイン工業株式会社

P.R.I.M.V.S



京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —



主催：ART OSAKA 実行委員会

実行委員長：松尾良一 (TEZUKAYAMA GALLERY)

実行委員：林聡 (ギャラリーノマル)、細川佳洋子 (ギャラリーほそかわ)、石田克哉 (MEM)、加藤義夫 (加藤義夫芸術計画室)

八木光恵 (アートコートギャラリー)、井上佳昭 (Yoshiaki Inoue Gallery)、森裕一 (MORI YU GALLERY)

相談役：山口 孝 (ギャラリーヤマグチクンストバウ)

事務局：フェアマネジャー / 宮本 典子 アシスタントマネジャー / 川西 遥、鈴木 香澄、山岸青葉

エキシビターレイショonz / 宮下 和秀 (MUG)

写真撮影：待夜由衣子 (Yuiphotop)、宇野真由子 (UNO photo works)

問い合わせ

ART OSAKA 事務局：c/o office N 担当：宮本、川西、鈴木、山岸

542-0062 大阪市中央区上本町西4-1-68 T. 06-7506-9338 / E. info@artosaka.jp